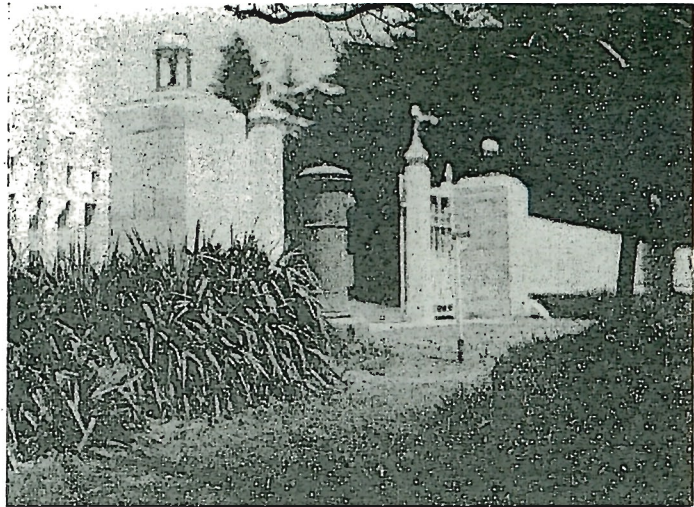


六 門札とポスト

漱石の所謂「いかめしき門を這れば蕎麥の花」の堂々たる正門を這入つて、同じく漱石の「粟みのる畑を借し

會ては不思議の一
校札の廢



敷地なり」の校舎に向つて進み、右に東光原、左にブルと檜の森とに挟まれてゐる道を通つて、肅酒たる中門と東西に通用門も開いてゐるのに、その何れにも校札を懸けないことも、本校特徴の一つで、曾ては七不思議の一つに數へられてゐた。小さなことではあるが、この際その由來を明かにして置きたいと、色々調査して見たが、古城時代や第五高等中學校時代に懸けてあつたか否かは判然しない。然るに改稱後一時は確かに懸けてあつたことが、寫真に示す通りである。記録を案するに、三十年七月十日の起案には、次の如く記してある。

校札ハ最早朽廢ニ付今般夏期休業ト共ニ御廢止相成候テ可然哉此段相伺候也

右の起案は、即日許可を得、十一日を期して遂に廢棄して了つたものである。而して文中朽廢云々とあれば、相當の

年數を経過してゐた筈ではあるが、改稱後僅に三年にして朽廢するものだらうか。掲げて置いた校札は、廢棄前のもとも考へられず、且その後に入學した人々の中には、懸けてあつたやうにも記憶することとであれば、廢止は取替の意味だらうか。新調の記録もなく、依然として不可解である。寫眞の裏には、正門より教室を望むと書いてあるが、門内の櫻も見えないのは、櫻の樹はその後に植付けたものであることだけは確かである。工學部もなかつた頃なので、今と異つて、正門の前より充分に撮影することが出来たものと見える。

中門外の西側に立てられてゐる郵便ポストも、その頃より始まつたものである。三十二年三月九日、生徒課より生徒宛揭示したものに、

ポスト設
立年月

ポスト設立

今般本校中門西側にポスト設置候ニ付今後寮生ノ書狀各自該ポストニ投函スルヘシの記録が遺つてゐる。在寮生は、二十二年移轉以來、既に滿十箇年の長い間、不便を忍んで來たわけである。

七 カッター來る

明治二十八年を以て端艇會の成立を見た本校には、翌二十九年の早春、新艇の進水式も行はれ、三十年の春には、第二回の端艇會が舉行せられた。然るに三十年、本校は、佐世保鎮守府より、日清戰爭の戦利品たる十餘艘を官公私立の學校に譲與すべき由を聞き、鎮遠號艦載のカッター二艘を譲受けた。その経緯はかうである。本校長は、六月十二日付を以て、該鎮守府長官宛、左の如き照會を爲した。

譲與の照
會

十四號 バーチ 一艘 (長三十三尺 幅八尺五寸)